

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0172902116		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループ ホーム あけぼのⅢ		
所在地	北海道旭川市忠和6条6丁目2番24号		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	令和5年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172902116-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和4年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和4年4月よりユニット目標「思いや意思を尊重し何気ない日常生活を利用者に過ごしてもらえよう」に笑顔で優しく思いを聞き入れよう」をユニット職員で掲げて、その理念に基づき9名の入居者様それぞれのやりたい事や思いを叶えられるように時間を作ってチームで日々対応している。又、笑顔も増え入居者様、ご家族様に安心して過ごせる環境作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、旭川市の西方向にある閑静な住宅地に位置している2階建て2ユニットのグループホームである。隣接して、保育園や商店があり、利用者の散歩や買い物に便利な立地である。法人は、医療法人を母体として、認知症高齢者グループホームを始め、医療系有料老人ホーム、訪問看護、訪問介護、通所介護等を旭川市を中心に札幌市及び道内、首都圏にも展開するなど、積極的な高齢者介護の支援を行っている。特長は、母体が医療法人であるため、医師や看護師を中心とした24時間の医療支援体制が構築されており、重度化や終末期にも積極的にチームで支援している。コロナウイルス感染症対策で、近隣との交流を制限していたが、隣接する保育園と交流が再開ははじめ、少しずつ地域との関わりを再開していく予定である。法人内の美観検査で常にトップにある整理整頓された見本となる事業所である。これからも認知症高齢者の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員や来訪者の目に留まる所に掲示し職員にはポケットサイズの理念を配布している他にユニット会議にてユニット理念と合わせて確認を不定期ではあるが行っている。	今年の4月からユニット毎に理念を決め、事業所内に掲示し、職員はポケットサイズの理念カードを所持し、会議等で振り返り確認し、職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣を入居者様と散歩する事で地域の住民と繋がる機会が多くなるように取り組んでいる。	隣接している保育園との交流が再開し、芋堀など楽しみな関わりが始まっている。また、隣接している同法人の有料老人ホームにアイスのキッチンカーが来て、アイスを食べるなどの交流が少しずつ再開し始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のゴミ拾いには数名の入居者様と職員が定期的に参加したり古紙回収日には入居者様と一緒に出して地域貢献をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナにて書面開催となっているが、ご家族様や地域へ運営推進会議の内容を送付しご意見や感想を頂き活動に活かせるようにしている。	運営推進会議は書面会議だが、定期的開催して、議事録と写真付きのコメントを添えた手紙と一緒に送付して、委員や家族に報告して、意見や感想も聞き、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の指導監査化課や地域包括支援センターと連携しサービスの内容を伝え協力関係を築けるようにしている。	運営推進会議に地域包括支援センター担当者が参加しており、定期的に意見交換や情報交換を行い連携している。また、グループホーム交流会にも参加して情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に4回の身体拘束委員会の勉強会を開催し職員が常に身体拘束にあたる知識を勉強し正しく理解出来るようにしている。	身体拘束適正化委員会を設置して、3ヶ月に1回委員会を開催している。研修会も法人内と事業所内の内部研修を定期的開催し、身体拘束をしないケアについて学んで取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待研修に参加する事で職員同士がお互い指摘し合える環境を作り虐待が見逃ごされないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての勉強会への参加にて知識を持ち理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時には十分に家族と向き合う事で理解と納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や月に1度のお手紙を配布する際にアンケート用紙を配布しご意見や要望を伺いながら運営に役立てている。	運営推進会議の議事録に行事の写真を添付しており、また、居室担当者が利用者毎の生活状況を月に一度のお手紙で家族へ報告している。アンケートも添えており、家族からの意見や要望は運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の職員評価時(ラダー評価)を実施し、個人の目標設定を行い実績を給与へ評価している。又、各職員の意見や考えを聞き入れられる環境を作っている。	全体会議を月1回開催し、ユニット会議も月1回開催して、職員間の情報共有を行っている。また、個人面談は年2回行っており、職員からの意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事課にて職員評価(ラダー評価)を実施し、各個人の目標や実績を給与へ評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立てて、職員の能力を見極めてその職員に合った研修を法人内で案内している。又、各事業所内においても月1度の会議内でもその時に必要な研修を開催する事で職員を育てる取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	現在コロナ禍にて活動を自粛している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ関わりを多く持つ事で本人の不安を軽減できると共に本人に寄り添う事で信頼関係を築けるようサービス内容を設定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめな連絡でご家族様の要望等を聞き入れながらご家族様の目線に立つことで良好な関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を活用しアセスメントを行いながら身体状況、本人の希望等を把握しインフォーマルサービスを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の身体機能を見極めながら、生活の中での出来る部分を把握し本人の意思を汲み取りながら本にが選択決定出来るような関わりを持てるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ禍にて面会の制限を設けているも必要に応じて電話連絡にて話せる時間を作ったり、毎月の手紙にて近況報告や写真を同封する事で信頼関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会制限がある為、玄関にて距離を取り感染対策を行った上での面会を個別にて実施しているが、個人のこれまで繋がっていた関係が途切れないように配慮している。	新型コロナウイルス感染症対策で、現在は、面会の制限中であるが、今までの関係が途切れないように工夫して対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や気持ちを尊重しながら個人が過ごしやすい環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後も、家族の問い合わせや情報提供をする事で関係が切れないようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望や意向を聞いて思いが叶えられるように努め、状況に応じて家族にも協力を仰いでいる。	意思表示できる方は半分くらいおり、困難な方は、日常生活の中で、表情や仕草などで把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、以前の利用していた事業所や医療機関より情報収集を行い、これまでの暮らしや環境に出来るだけ近い生活を遅れる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活シートを元に本人の生活パターンを把握するよう努めている。又、会議等において職員間で情報共有したり連絡ノートを活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者それぞれに担当職員を配置し、ご家族様、医療機関等と連携し本人にあったプラン作成が行えるように計画作成担当と協力しケアプランの作成をしている。	居室担当者がモニタリングし、家族からの意見や要望なども含めて、計画作成担当者と打ち合わせして、計画作成担当者が介護計画の原案を作成し、ユニット会議で職員全員で検討して、それらをまとめて現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式、モニタリングを活用しながらご家族様の意向、医療関係の意見も聞きながら毎月の事業所会議において情報共有しプラン作成に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてインフォーマルサービスの利用の提案や住み替えなど相談している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	古紙回収への参加、コロナ禍にて施設裏庭の散歩、町内の散歩にて外出を楽しむ事が出来るようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重しながら医療と連携し適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関の往診は月2回で、看護師が週1回の訪問があり、24時間の医療連携での適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はないが、提携医療機関との情報共有にて、本人が適切な支援が受けられるように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と連携しながら本人が早期に退院出来るように医療機関と頻りに連絡を取りながら対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項の説明をすると共に医療機関からのICを機に看取りプランに移行できるような体制を取り家族と共に支援出来るように取り組んでいる。	重度化や終末期については、入居契約時に説明して同意を得ている。重度化した場合は、主治医の指示のもと本人、家族と打ち合わせして、看取りの場合は、意向確認書を交わし主治医の指示のもとチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての研修には職員が参加できるようにし、事業所会議を通して周知できるようにし、常に確認できるようマニュアルも作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し職員が災害時に対応できるようにしている。	避難訓練は、日中と夜間を想定して、各1回の年2回定期的に行っている。備蓄や備品も整備して、地域の支援を受けて災害対策を行っている。	感染症対策と自然災害対策のBCPが作成中の為、完成後にそれに基づく訓練を行い、より完成度を高めてR6年4月までに完成することを期待する。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルを基に職員の対応を確認しながら必要に応じて教育しており職員同士がお互いに注意し合える環境を作るよう努めている。	人格の尊重とプライバシーについては、法人内で接遇の研修会が定期的に行われており、今年から元客室乗務員を採用し接遇の改善を行っている。また、事業所内では、スピーチロックの研修なども行い人格の尊重やプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に確認し希望を引き出せる場面を作り自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日々の業務時間を変更しながら個々の活動ペースを把握しながら本人の生活が豊かになるように務めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや趣向に合わせて都度、洋服の選択や使用している化粧品等が使える様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部発注にて栄養士の作成したメニューに沿って職員が調理し下ごしらえや盛り付け等を入居者で行う事で食事作りに参加して頂いている。	食事は外部委託で、調理は職員が行っている。利用者は、下ごしらえや盛り付けを手伝っている。新型コロナウイルス感染症対策の為、外食は制限しているが、施設前での焼き肉パーティーや手作りハンバーグ、たこ焼きなど楽しい食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量や好みに合わせて代替の食材にて工夫し水分についてもゼリーなどを提供する事で水分量を確保出来るよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの案内にて清潔保持が保てるようにし、必要に応じて歯科医の訪問診察も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄リズムを把握し個人に合わせてトイレ誘導を行っている。又、排泄用品の見直しも常時行っている。	生活シートから利用者毎の排泄パターンを職員間で共有し把握している。時間や仕草を見ながら、声掛け誘導し、トイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の運動量や水分量を把握し医療機関と相談しながら飲食物の工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個人の希望を聞きながら入浴してもらえようようにしており、週2回以上入浴できるよう対応し状況に応じてシャワー浴、清拭も取り入れている。	浴室の洗い場が広くてゆっくりできる。入浴は週2回以上で、利用者の希望を聞きながら、個々に沿った入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や個人の状況や状態に合わせて休憩や傾眠、臥床対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを基に、薬剤情報のマニュアルを職員が確認出来るようにしており服薬の際も必要に応じて職員が介助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を把握する事で、家事等の支援や行事の開催、ゲーム等を通して気分転換ができるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って出来る限り対応している。	外出行事は、新型コロナウイルス感染症対策の制限をしているが、近隣の一周コースの散歩や降りないドライブでのバナナ館訪問や近所一周コースなど個別に出来ることで支援を行っている。	新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたら、家族と一緒に外出行事を行う計画を検討することに期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はコロナ禍にて制限はあるも、希望者が居れば、家族と相談し了解のもと希望に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	都度、手紙やはがきのやり取りができるように支援している。電話についても希望があればいつでも対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には、季節に合わせた装飾を施しながら入居者に季節感を感じてもらえるようにし、室温や音、光の加減を調整しながら居心地の良い空間を作っている。	共用空間は、採光や風通しもよく整理整頓されており、温度や湿度も管理し、環境整備に努めている。ホーム内は季節に合わせた飾り物や利用者の作品や行事の写真を掲示している。利用者は、リビングでいつも寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の家具の配置を工夫しそれぞれが思いのままに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物の配置を心掛け安心して過ごせる空間作りに努めている。	居室は、収納とベットが設置されている。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場に張り紙を施し安全に迷うことなく使用できるように工夫している。		